

私の最も感動した事

それは私がまだやつと十三か四か、下髪のお轉變盛りで、神戸女學院の豫科も一番下のクラスにゐた時でした。

二月半の長い夏休みを終つて、涼風立ちそめた九月の新學期に歸つて間もなく、私達は意外な噂に驚かされました。

「中塚さんが肺病で死にさうだつて！」

「まあ中塚さんが！」

噂を聞いたものは誰も彼も、みんなハッとした様子で、暫らくは黙り合つて居りました。實際私にしたところで、正直な話、思はず胸がドキツとして、久しい間鼓動が靜まりませんでした。

斯ういふと皆様は屹度、中塚さんといふ方

を御想像なすつて、常日頃學院でも評判な人望家か何かで、そのため全校の生徒一同、心配の餘りに、胸をおどらせたのであらうと。

まあ、もしさうだつたら、私達はどんなに幸福でしたせうか。

ですけれども、事實は大違ひ、私達はついぞこれまで、誰一人として中塚さんを愛したものはありません、いゝえ、それどころか憎み切つて、たまたま中塚さんに多少の同情を寄せるものでもあらうものなら、私達は同盟してその人をも仲間外れにした位です、そしては意地の悪い事ばかりしむけて、困らせ通しました。

全校ののけものあつかひにされた中塚さんは、品性の下劣な、それ程いやしい人だつたのでせう

仲間づれの少女

永代美知代

か、いゝえ決して！

玲瓏玉の如しといふ言葉がありますが、我が中塚さんこそ、その代表者と云つて差支ありません。萬事にひかへめな女らしい中に、何處か犯し難い氣品があつて、おまけに學術優等で、中塚さんは普通科四年生頃から、立派な英詩を作つて、外國の教師方を感じさせました。ですから普通科を卒業後、院長は中塚さんに英語を受持たせ、豫科生を教へながら、それによつて學資の補助を得、高等科に進ませました。

併し私達は上級生のおだてに乗つては、よくストライキして、中塚さんを困らせました。そしてその理由は、單に中塚さんが新平民の娘だと云ふ、それだけの事で！

おう、何といふ馬鹿な淺臺な私達でしたせう。中塚さんは死にました。桐一葉もろくも落ちる初秋に、まだうら若い中塚さんは、空しく死んでしまひました。

「中塚さん、勘忍して下さいい！」

しみじみ前非を悔いた私達が、斯う臨終の枕邊に寄つた時はもう遅い、中塚さんは瘦せ細つた大理石の如く神々しい顔を心持此方に向けたばかり、何一言口を利く事も出来ませんでした。私は今までに、この時ほど感動したことはありません。

